

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| □生活困窮者支援と
地域包括ケアのまちづくり ……1P | □まちの先生 ……3P |
| □一宮市職員研修 ……2P | □日本福祉大学サービスマーケティング…3P |
| □刈谷市協働のまつり場 ……2P | □東日本大震災復興支援PJ ……3P |
| □サービスマーケティング団体の紹介 ……2P | □NPO担当若手職員リレー ……3P |
| | □インフォメーション ……4P |

生活困窮者支援と地域包括ケアのまちづくり

愛知県では、4月施行の生活困窮者自立支援法に関して、協働促進会議を開催しています。これは、健康福祉部地域福祉課が「生活困窮者支援を通じた地域づくり」をテーマ提案し、県民生活部社会活動推進課が9月から設置した会議。行政4、NPO5、社協1、地縁1の構成員で検討、知多地域からはNPO法人ゆめじろが参加、本法人が進行役を担っています。

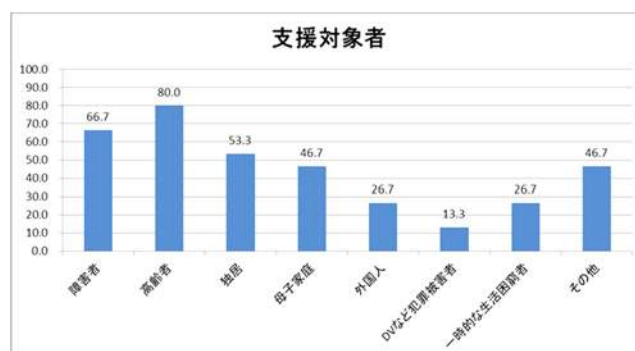
この法律は、非正規雇用や低年収者の増加に伴い、生活保護受給に至る前の段階で、①総合相談②住居確保③就労準備④一時生活支援⑤家計相談⑥子どもの学習支援等、困窮家庭の自立に向けた支援を行なうため創設された、初めて対象を「年齢」や生活困窮以外の「状況」で区分しない制度です。必要に応じて福祉課、住環境課、商工課、税務課、子育て支援課、学校教育課等、庁内協働が求められますが、調整会議が十分機能していない行政も多くあります。

その他、インフォーマルな地域資源が把握できていない、対象者の早期把握や予防的支援が困難などの行政側の課題に対し、NPOの取り組みでは「自立支援とは、たすけあう共生の関係づくり=SOSを出せる地域文化づくり」であるとの理念や、相談者を起点にした支援で地道につなげていくしかない、しかし支援人材が不足、非行・触法の受け皿がない、発達障害について知識不足などの課題が挙げられました。

第2回の会議には、ゆめじろがフードバンク・プロジェクト@ちたの取り組みを紹介、連携機関も巻き込んで食品を持って対象者へのアウトリーチ＝早期把握・予防的支援を行なっていると報告しました。

11月26日の第3回では、つなぎ役のコミュニティ・ソーシャル・ワーカーや生活支援コーディネーター(高齢者介護分野)、民生委員、居場所コーディネーターなどの人材を検討していく予定です。(岡本)

フードバンク・プロジェクト@ちた 利用実態調査報告



食べられるのに捨てられている食べ物と食べるのに困っている人をつなぐ活動として、認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋と連携し、地域拠点常滑市社協の協力の元活動している。平成25年9月のスタート当初は登録数24団体から始め、2年目の現在は43団体まで増え、NPO、社協、ファミリーホーム、任意団体、地域のサロン、行政と多分野に広がっている。

食によるセーフティネットの発展を目指して各団体の利用実態と今後の展開を調査し、報告も兼ねて8月31日意見交換会を開催した。

調査の主たる目的は、支援対象者の把握。上記グラフの通りであるが、「その他」内訳については子ども、特に条件なし、移動困難者、子育て中の家庭、グレーゾーンの若者、父子家庭、産褥期と続く。回答率43%だが、支援総数1,714人(内訳:650世帯、子ども43人)という数値も明確になった。

生活困窮者支援のためのよろず相談ができる常設型の居場所の設置や、プロジェクト継続のための資金調達(寄付)も今後の取組課題として共有された。(市野)

■NPO現場見学バスツアー—宮市職員研修



研修内容は、「NPO基礎知識と知多地域の特性」の講義後に、NPOを数カ所見学、ふり返りまでの一日の研修が基本。

10月7日に開催した東海市は、入庁一年目のフレッシュな時期に市民のチカラを実感、協働推進への貢献を確認するふり返りでは、地域への愛着の再確認ができたとの意見が多く出された。

これまでの座学などの研修との相違点は、

「困ったときはお互いさま」を合言葉に、地域で暮らす人たちが隣近所で助け合いながら組織化されてきた市民が講師であること。地域の現状を知り多角的な視点で捉える力、必要なものは持ち寄りで解決しようとするからこそその協働の姿勢を学ぶ。

10月1日に行なわれた一宮市職員研修職員のふりかえりより、できるコトや協働の必要性を一人ひとりの目線で感じた意見(抜粋)は次の通り。○市民目線と同じ目線に立つ。○問題の課題解決を時代の少し先を見て考える。○NPOに限らず活動団体が利用できる制度を広報し、利用してもらう。○地域で活躍したい人が力を発揮しやすい舞台をつくる。○活動規模が小さいことでも繋いで関連性を持たせることで一つの流れにする。などを共有した。

今後の予定は、武豊町入庁2年目職員として11月24日、半田市も年明け2月での開催に向けて企画を進めている。いずれも基礎自治体内のNPOを見学することになっている。また、協働をテーマに2月23日の定例バスツアーは職員研修に近いカタチでの企画、見学先を予定しているため、担当課にてご参加、ご検討の上、事務局までお問い合わせください。(市野)

■刈谷市協働のまつり場

刈谷市では相互理解と今後の施策レベルでの方向性を共有する場とし、平成23年度より協働のまつり場を開催している。今年度は、介護保険制度の改正と地域ボランティアの連携をテーマに長寿課が提案、年4回の意見交換会を予定している。メンバーはNPO2、新聞販売店、ケアマネ、ボランティア、民生委員の市民6名と行政6名(健康福祉3、市民協働1、社協2)が参加、合意形成しながら方向性を見出し、29年度に移行する新総合事業に向けてのネットワーク化を目指す。

初回の10月30日は参加者の自己紹介を中心に、双方様々な取り組みの紹介が行なわれた。自治会や子ども会などへの加入率が低下が、地域の必要な情報が必要などところへ届いていない、など地域のつながりに課題があることを共有された。(市野)

☆サービ斯拉ーニング団体の紹介☆

NPO法人ひだまり

立ち上げメンバーであり、前理事長の渡邊典子さんにお話を伺った。

認知症であっても、自分らしく、馴染みのある地域での生活を続けたいと願う人々を「プロの技とボランティアの精神で」支えていきたい。このような想いを胸に、平成9年5月「ミニデイサービスひだまり」を半田市東本町で開所したところから始まった。

現在は、介護保険事業として通所介護(デイサービス)・居宅介護支援(ケアマネジャー)、そして、介護保険対象外事業として、訪問介護・デイサービスを行っている。



立てた割り箸を倒さないように1本ずつ抜いていく。食事の前の指先と頭の体操を行っていた。

また、ふれあい事業では各種教室(絵手紙・ゆる体操・書道)、託児・喫茶を行っている。将来的には、障害児(者)・高齢者の親子が同じ部屋で過ごせるアパートを運営したいと考えている。

利用者は、神社の境内に立ち寄れば、自然と手を合わせて目を瞑る。古くから身に沁みついている行為は、本人がどのような状態であっても忘れないことと同じように、利用者が古くから慣れ親しんだ物や雰囲気の中で生活できる工夫をしている。古民家を借りてデイサービスを行っていることも、その理由の1つ。

現場には、いろいろな人がボランティアで関わる。子どもや孫を連れ、かわいい声を聞かせてくれたり、力士や、企業のボランティアグループなどがふらりと足を運んでくれることも。

サービ斯拉ーニング担当の大橋さんは、「こんなことで悩んでいるんだけど・・・。」という相談をよく受ける。そんなとき、出来る、出来ない、ではなく、「どうやったら出来るか」を考える。これが、ひだまりが取り組んできたことであり、NPOの特性でもあるのではないかと、話してくれた。(新保)

■まちの先生

愛知県内に11校ある総合学科の高校では初の試みとして「学生が地域とどうかかわるか」を学ぶために、市民が授業を受け持つ「まちの先生」は、3年生を対象に知多翔洋高校で始まった。15講座の中から、好きな授業を選択して10回コースで授業を受ける。

高校生がNPOに対する理解を広げるチャンスと捉え、本法人も手を上げた。まずは生徒の夢やボランティアに対する考えを聴いたうえで、NPOの実践3団体を紹介し、その後にボランティア体験の場をつくる。

NPO法人知多地域成年後見センター職員が先生をした回では、認知症の梅子おばあちゃんの事例を通して、外見からは想像しにくい困りごとを見える化し、高校生ができる支援を考え、若者らしい気づきや新鮮な発想が多数発表された。中盤には、2市2町自立支援ネットワーク協議会知多市ワーキング部会とコラボして、ボランティア体験を計画している。

将来彼らがNPOへ参画することを期待し「知る・学ぶ・体験する」のプログラムで丁寧に伝えていきたい。(五十嵐)

■日本福祉大学サービスラーニング

8月6日(木)から、日本福祉大学の学生4人が計7日間、サービスラーニングの活動を行った。たくさんの人の協力があり、学生たちは地域の中で自分たちの役割を担っている方の熱い想いに接することができた。

地域の課題やニーズに向き合い、「自分たちに何ができるか」ということを考えるきっかけになる活動となった。(海老原)

【学生から】

私たちは夏休みにサポートちたでサービスラーニングを行いました。サポートちたの今年度事業として、東日本大震災の復興支援に取り組んでいることを知りました。この事業に関わる活動をする事になり、私たちは知多市民の防災意識に関する調査を行いました。

調査では、アンケート調査とヒアリングを行い、調査結果をまとめ、最後はサポートちたで報告会を開きました。

活動を通して、サポートちたをはじめ、知多市の小学校・コミュニティ・行政など様々な所に行き、たくさんの方たちに出会いました。知多市の方たちと関わることを通して、地域やそこに暮



報告会には、アンケート調査やヒアリングを行った小学校、学童保育の職員も参加した。

らす人たちに対する思いを知ることができ、人とのつながりの大切さを学ぶことができました。また、300人以上の方たちに回答していただいたアンケートを集計し、まとめるのには苦勞しましたが、それだけの方たちに協力していただけたことは感謝の気持ちでいっぱいでした。今後は、サービスラーニングで学んだことをこれからの大学での学び、そして社会に出てからの生活に生かしていきたいです。(岡本ゼミ 谷口真樹)

■東日本大震災復興支援PJ

講演会「知ってる？被災地南相馬のこと」を6月21日に終えた後のふりかえりより、何が南相馬の支援につながるのかを話し合い、勉強会を重ねてきた。講演会第2弾として11月14日、常滑中学校の鹿嶋勉校長をお迎えし、校長先生が見た南相馬の現状等を伺い、参加者同士の交流を図る予定。(4面参照)

NPO担当若手職員リレー

刈谷市市民活動部市民協働課 泊浩之さん



自分の仕事が生活の中で目に見える形で実感できることがやりがいにつながっている。担当課になってから、地域のひとと挨拶を交わすことが増え、NPO法人や市民活動団体が開催しているイベントに顔を出すようになった。

刈谷市では、まちづくりコーディネーターを育成するために、講座「つなぎの学び舎」(2年間)を開催している。現在では、まちづくりコーディネーターとして37名が登録している。この取り組みに限らず、市民と行政が対話をする場や、市民活動、ボランティア活動をPRする場を多く設定し、刈谷をもっとよくしたい！という思いを持った市民と一緒にまちづくりに取り組んでいる。

協働の必要性を市民、行政に浸透させること、市民・行政・NPOの協働を進めることが課題である一方で、市民・企業・行政などが刈谷市の市民活動を応援する資金支援制度、「かりや夢ファンド」で、採択された団体が毎年着実に認知度を上げ、成長している。「かりや夢ファンド」に採択された団体の事業が認められ、新聞などで取り上げられた際は本当に嬉しい、と語った。(新保)

☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

新会員紹介 ☆ご入会ありがとうございます

【準会員/団体】 合同会社てんむす介護 様

☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■炭酸パワーでたまご肌を目指そう！

今話題の炭酸パックのお試し会。炭酸を使って、皮膚の改善、褥瘡などメディカルケアについて説明する。希望により11月11日(水)も開催可。(要相談)

〈日時〉11月6日(金) 15時～

〈場所〉喫茶POR (半田市寺町36番地)

〈参加費〉無料

〈定員〉10名 ※お早目にご予約下さい。

〈申込問合せ〉(N)オレンジ ☎080-6908-7422

■あかり感謝まつり ～楽しく築こう地域のわ～

7回目を迎えたNPO法人あかりの感謝祭り。餅つきやキッズダンス、似顔絵などのイベント、焼きそば、フランクフルト、だんごなどの出店、そのほか相談コーナーも設置する。

〈日時〉11月15日(日) 10時～14時

〈場所〉街かどサロンきらり (常滑市塩田町1-155)

〈問合せ〉(N)あかり ☎0569-35-4189 (事務所)

■熟年婚活 in セカンドライフフェスティバル

熟年世代の婚活イベント。お茶飲み友達から絆を深める。

〈日時〉11月21日(土) 10時～14時

〈場所〉半田市雁宿ホール 2階第3会議室

〈対象・定員〉50歳以上の男女各15名

〈参加費〉2,000円(昼食代込み)

〈主催〉(N)ぱれっと

〈申込問合せ〉半田市市民交流センター ☎0569-32-3430

■参加者募集！スキー&スノボ教室

現地スタッフが初心者から経験者まで、レベルに合わせて指導。温泉、お楽しみ会あり。

〈日時〉平成28年1月9日(土)～11日(月)

〈場所〉開田高原マイアスキー場

〈集合〉武豊町総合体育館駐車場

〈参加費〉スキー48,000円 スノーボード51,000円

〈対象〉小学3年生～中学生 (先着40名)

〈申込期間〉11月4日(水)～12月4日(金)

〈申込問合せ〉(N)ゆめフルたけとよスポーツクラブ

武豊町総合体育館内 ☎0569-84-1100

□■ サポートちた 今後の事業予定 ■□

■校長先生が見た南相馬

～南相馬市から富岡町までの現状～

常滑市立常滑中学校の鹿嶋校長先生から、被災地の現状、放射線量の正しい理解についてお話しをお聞きする。

〈日時〉11月14日(土) 13時～15時

〈場所〉知多市青少年会館 多目的ホール

〈参加費〉無料 ※申し込み不要

〈主催〉知多市、南相馬の子育ち応援「けやき」

〈担当〉南相馬の子育ち応援「けやき」事務局:新保

■第4回ベティ基金助成先募集

株式会社RandTカンパニーより預託され昨年12月にベティ基金設立、知多半島の障害者支援活動団体を応援する。

〈助成金額〉1団体につき8万円 〈助成件数〉4団体

〈内容/対象〉制度外の障害児者支援の取組を行なう団体

〈支払時期〉平成28年1月(予定)

〈申込問合せ〉江端

■強度行動障害支援者養成研修(基礎課程)

〈日時〉平成28年1月17日、24日 9:30～16:45

〈会場〉知多市勤労文化会館、知多市市民活動センター

〈定員〉40名

〈受講料〉15,000円(税込、テキスト代含む)

〈受講資格〉入門段階の基礎研修のため資格は問いません

※愛知県知事指定研修過程の修了証明書を交付

〈申込問合せ〉五十嵐

■第140弾！ 定例NPO現場見学バスツアー

〈日時〉平成28年2月23日(火) 9時半～16時半

〈集合場所〉知多市市民活動センター

〈参加費〉5,200円(昼食代別途)

〈見学先〉①NPO法人知多地域成年後見センター

②南粕谷ハウス

③NPO法人あかり

〈申込問合せ〉新保

NPO現場見学バスツアー 第140弾

～NPO・行政・地縁との連携～

【平成28年2月23日(火)】

定員26名(先着順)

参加費5,200円(昼食代別途)

オプションバスツアーは随時受付中です。
あなたの目的に合わせてプランニングします！
(担当:新保)



特定非営利活動法人
CFSC 地域福祉サポートちた

478-0047 知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743